



北海道大学

欧州における灰色文献に 関する取組の調査

— 17th International Conference on
Grey Literature への出席 —

平成27年11月29日～12月4日
オランダ アムステルダム

北海道大学附属図書館 管理課 図書受入担当
磯本 善男

平成28年年6月17日
ホテルメトロポリタン仙台

はじめに：会議の概要

1) **GreyForum 4.1** (Pre-Conference Workshop)

会場：Huis de Pinto（公共図書館）

日時：平成27年11月30日（月） 参加者数：14名

3つの事例報告とディスカッション

2) **GL17: 17th International Conference on Grey Literature**

会場：KNAW (Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences)

オランダ王立芸術科学アカデミー

日時：平成27年12月1日（火）～2日（水）

参加者数：名簿上は100名程度

4つの全体セッションとポスターセッション



1. 全体セッションにおける発表

日本における灰色文献を取り巻く状況の紹介

- 1) 博士論文の電子的公開の義務化
- 2) 日本におけるオープンサイエンス政策の動向
- 3) 政策的な議論が起こる以前から始まった
「全国遺跡資料プロジェクト」の紹介



2. ETD(電子学位論文)

- ・本文だけでなく、研究データも適切なフォーマットで保存・公開する
 - PDFは適切なフォーマットではない
- ・研究分野毎に研究データの形態は多様
 - 分野毎のアプローチが重要
- ・学生へのサポートも重要
 - 博士課程教育への統合も
- ・電子投稿は義務化が理想
 - 義務化されるまではインセンティブを与える



3. 研究データの保存・公開

・本文と研究データを別々のリポジトリへ

データリポジトリ
zenodo

プレプリントサーバ
arXiv

データリポジトリ
Dataverse

The
Dataverse
Project

Open source research data repository software



4. 灰色文献とソーシャルメディア

ブログやTwitter等のソーシャルメディアの研究活用に関する調査

- 1) 研究者の世評や透明性の評価をサポートするツールとしては有用。
- 2) 研究の影響を計るツールとは(まだ)言えない。
- 3) 自らの研究の広報手段としては使用されるが、検索する手段としては使用されない。



5. 特色ある取組

TIB AV Portal

TIB(ドイツ国立科学技術図書館)が提供する視聴覚資料、3Dオブジェクト、ソフトウェアコードを保存・公開するポータルサイト。LOD(Linked Open Data)としてのデータ公開を目指す。

MAPS (Marine Planning and Service Platform)

海洋学分野の灰色文献も含めた学術情報プラットフォーム。ポスターセッション最優秀賞。イタリアのCNR(National Research Council)が主導。

INIS (International Nuclear Information System)

IAEA(国際原子力機関)の原子力文献情報データベース。原子力関連技術の平和的利用を目的とする。



最後に：会議に参加して感じたこと

日本におけるオープンサイエンスへの 取組に向けて必要なこと

- ・長期的なかつ周到な計画
- ・技術基盤及び財政基盤
- ・研究者と職員の更なる連携
- ・職員の研鑽（有能な職員の育成）
- ・適切なフォーマット選択とメタデータ付与



御清聴ありがとうございました

このような貴重な機会をいただいたことに心から感謝いたします

